1都3県の入社式、コロナ後見据え挑戦促す

#関東 #東京 #埼玉

2023/4/3 19:45 [有料会員限定]

入庁式で式辞を述べる小池百合子知事（都庁、23年4月3日）

1都3県の各地で3日、入社式が開かれた。これまでは新型コロナウイルス禍でリモート開催が主流だったが、対面での開催やマスクを着用しない式が相次いだ。新型コロナは5月から感染症法上の位置づけが季節性インフルエンザなどと同じになる。企業や自治体のトップからはコロナ後を見据えた挑戦などを促す声が目立った。

東京都は都庁内で入庁式を開いた。2022年度は4人だった対面での出席者を35人まで増やし、他の新入職員はオンラインで参加した。式典中のマスクの着用は任意とし、出席した新入職員は全員がマスクを着用しなかった。

小池百合子知事は「従来の発想を大胆に打ち破り、イノベーションを生み出さなければならない」と強調。都民視線や国際的な視点での仕事を意識した上で「ゲームチェンジの時代に立ち会えたやりがいと誇りを胸に前へ前へと歩みを進めましょう」と呼びかけた。

埼玉県もマスクの着用を任意とし、入庁式を開いた。大野元裕知事は「少子高齢化が進む中で、持続的な成長をとげるためには生産性の向上が欠かせない」と指摘。その上で「日本一暮らしやすい県を目指すためには若い力が必要だ。大きな可能性に満ちあふれた埼玉県の未来を築こう」と訴えた。

コロナ後を見据えたデジタル化の重要性を訴える声も目立った。横浜銀行の片岡達也頭取は新型コロナ禍が収束に向かうなか、金融業界にも大きな変化が起きていると指摘。「デジタル化が進展し、仕事の内容、やり方が大きく変わっている。顧客への提案力を養うため高度なソリューション能力と、それを伝えるコミュニケーション能力に磨きをかけてほしい」と激励した。

千葉銀行は4年ぶりに入行式を分散せずに開催した。米本努頭取は一堂に会した新入行員に対し「我々はデジタルトランスフォーメーション（DX）やSDGs（持続可能な開発目標）への取り組みを推進している。業界の関心領域を広く持ち、幅広い視野で物事を考えてほしい」と強調した。